

マーケットレポート

**米国が追加利上げを決定**  
 ~今年の利上げ見通しは年3回と変わらず~

◆昨年12月会合以来の利上げ

FRB(米連邦準備理事会)は3月14-15日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)において昨年12月以来となる利上げを決定し、FF金利の誘導目標を0.75%~1.00%に引き上げました【図1】。

今回の追加利上げについては、米国の景気指標が概ね堅調に推移するなか、複数のFRB高官からの利上げに前向きな発言が相次ぎ、イエレン議長も講演で経済・インフレ指標次第では利上げが適切になると発言したことなどから、市場の利上げ予想が急速に高まっていました。その後、2月の米雇用統計も市場予想を上回る内容であったことから、3月利上げは既定路線と見なされ、市場の関心はFRBの先行きの政策金利見通しに移っていました。

◆今年と来年の政策金利見通しは変わらず

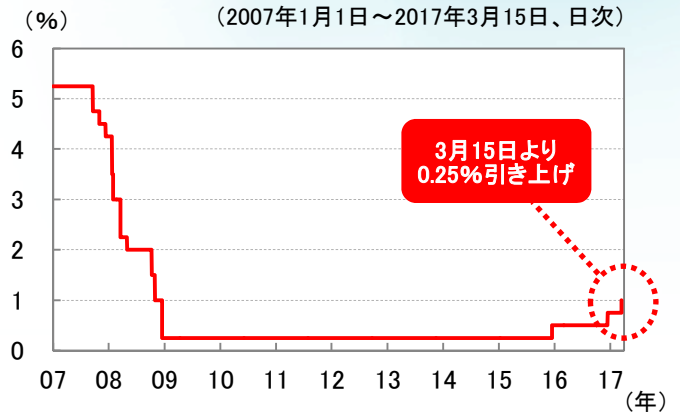
今回発表されたFRBの経済見通しでは来年の実質GDP成長率や今年のインフレ見通しについて小幅に上方修正されていますが、先行きの政策金利見通しについては概ね昨年12月時点から変わっておらず、先行きも緩やかなペースでの利上げを見込む内容となっています。2017年末の政策金利見通し(予測の中央値)は1.375%、2018年末は2.125%と昨年12月時点の見通しと変わらず、利上げの回数についても昨年12月時点と同様、0.25%刻みで年3回を想定しています。一方、2019年末については、3.000%と昨年12月時点の2.875%から小幅に上方修正されています【図2】。

◆15日の海外市場動向と今後の焦点について

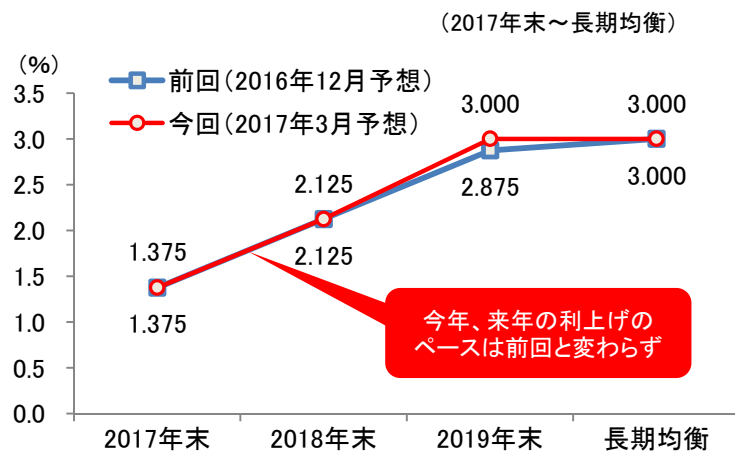
15日の海外市場では、先行きも緩やかなペースでの利上げが続くとの見方から、米国債券市場では10年国債利回りが2.5%割れの水準に低下、外国為替市場では113円台前半まで円高・米ドル安が進みました。一方、米国株式市場では、利上げ加速観測の後退に加え原油高を好感して、NYダウが前日比100米ドル以上上昇する展開となりました【図3】。

今後FRBとしては、米国経済が現状の経済見通しに沿ったものであれば緩やかなペースで利上げを継続する方針と見られますが、一方でトランプ米政権が掲げる財政政策の動向などについては不透明感が強いことから、当面はその動向を見極めるスタンスをとるものと見られます。4月以降、議会では税制改革の審議が本格化するものと見られますが、オバマケア関連議案の審議の遅れや与党内の意見集約に時間がかかることになれば、経済政策の実現がさらに後ずれる可能性があります。また、欧州各国では重要な選挙が続くこともあり、政治リスクの高まりによる金融市場への影響などにも注意を払う必要があります。

【図1】米国のFF金利(誘導目標)の推移



【図2】FOMC参加者の政策金利予想(中央値)



【図3】米国株式・債券・為替の動き

(2017年3月14日~2017年3月15日)※カッコ内は前日比

	株式 NYダウ (米ドル)	債券 10年国債利回り (%)	為替 米ドル/円 (円)
3月14日 (火)	20,837.37 (▲ 44.11)	2.60 (▲ 0.03)	114.75 (▲ 0.13)
3月15日 (水)	20,950.10 (+112.73)	2.49 (▲ 0.11)	113.38 (▲ 1.37)

(出所) BloombergおよびFRBのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

#### 【 ご留意事項 】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。